



前で青い幟を持つのが筆者

コロナ禍と猛烈台風10号襲来が重なる悪条件をもとにもせず、「老朽原発うごかすな！」を合言葉に全国から続々と大阪うつぼ公園に仲間が集まってきた。

お互いのパワーを交換し合い 元気の出る大集会!

老朽原発 うごかすな！ ニュース

第14号

発行・老朽原発うごかすな！
大集会 in おおさか実行委員会

【連絡先】
090-1965-7102

た広場には人影がまばらだったが、開会と同時に周囲の木陰で涼を取っていた沢山の参加者と幟（のぼり）旗がドツと広場を埋め尽くし圧巻だった。ふえみん大阪の手作りの可愛い旗も見える。私は「さいなら原発・びわこネットワーク」のブルーののぼり旗をしっかりと握りしめた。

司会は二木洋子さん。容赦なく太陽が照りつける特設舞台（車の荷台）の上で1時間半にもわたり、笑顔で良くとおる声で何十人にも及ぶあいさつ・報告・などスムーズにテキパキとこなされた。ほんとうにお疲れさま。どなたかが日除けのため彼女に傘をさ

しかけていた光景も、市民の集会らしくて微笑ましかった。大集会の前身はまさにダイバーシティ（多様性）。いろいろな団体、運動、立場の人たちが、様々な切り口で「老朽原発うごかすな！」と熱い言葉で訴えかける。それぞれの言葉が胸に響き深く伝わってくる。私たちは独りじゃない、こんなに沢山の闘う仲間がいる。お互いのパワーを交換し合い、元気が出る大集会になった。

閉会后、御堂筋デモに出発。滋賀は第1グループで私はバッグを背負い雨傘とのぼり旗を持ち歩き出す。ふと前を見ると、びっくり！そこにはスニーカーを履き身軽ななりで小ステッカーをかざし歩く井戸謙一弁護士姿が。西山美香さんの裁判でも無罪を勝ち取られ、八面六臂で活躍され



発言する井戸弁護士

る超多忙の毎日なのに、今日1日を全て「老朽原発うごかすな！」に費やしてください。感動だ。難波を過ぎ、突然土砂降りに遭いずぶぬ

「連帯」「リス펙ト」で 老朽原発うごかすな！ 総がかり行動に！

9・6老朽原発うごかすな！大集会inおおさか、1600名もの参加で、集会も御堂筋デモも終えることができた。

コロナ、酷暑、台風など、次から次へ立ち上がる壁を乗り越えての大集会、開催準備で長期間にわたり奔走して下さった実行委員会の皆さんに、心から感謝したい。

当日、私の役割は司会、万が一の時はとピンチヒッター

を引き受けていたのだが、4日前に司会の方のご都合が悪くなり、まさかの「万が一の時」になった。

コロナ禍での初の大集会、しかも連日の酷暑で、どれだけ参加者があるのだろうかと思いは不安だったが、参加者の皆さんも同じ思いだったと思う。炎天下のうつぼ公園に集まってこられた方々は、最初

れになった時、恐れ多くも私ののぼり旗を気さくにサツと持ってくださいり歩かれた。とても嬉しく井戸弁護士の人となり垣間見ることができた素敵な一瞬だった。

（脱原発市民ウォーク in 滋賀呼びかけ人・ふえみん婦人民主クラブ共同代表
岡田啓子）



集会を司会する二木さん

誰もおられなかった。しかし、開会の時刻が近づくとつれ、舞台前へのぼり旗を持って集まってきてくださった。そして、のぼり旗が増えるのに比例して、次から次へと続く発言者の訴えに参加者の視線が釘付けになっていき、会場の雰囲気不安から「そうだ! 老朽原発うごかすな!」の自信に変わっていくのが、舞台からは手に取るように感じられた。司会者として、こんなに心強いことはなかった。大きな集会は、準備作業とともに発言者、参加者一人一人に創り上げるものだということをあらためて実感した。

参加者一人一人の「意志」に関心を寄せて

「お願いだから、大勢で集まることはやめませんか?」8月8日の実行委員会、思わず参加者に問いかけた。その時、大阪民医連の病院診療所では、4月以上のCOVID-19に対する緊張感が漂っていた。

「感染とは全く関係のない症状の方から陽性者が出て、集団感染をぎりぎりのところで食い止めた。病棟で感染経路不明の感染者が現れた、接触、対面し

に追い込みたい! 最後に、私が司会をできたのは、実行委メンバーリストを通じ、会議には参加できないメンバーとも多くの情報の共有をして下さったから。開かれた実行委に感謝!

(反原発自治体議員・市民連盟関西ブロック 二木洋子)

たほとんどの職員、患者のPCR検査を実施した。3時間に及ぶ実行委員会の中での議論では「老朽原発うごかすな」の運動の重要性、不安、とは言ってもすべてやめてしまうのではなく多角的に・・・などなど、この運動に対する熱意が伝わってきた。「感染が広がっているからって、何もしないとどんどん(再稼働は)進んでしまう。ものの言えない世の中になる。私は嫌だ」という発言に対し



大阪ゼロの会を代表して、庄司さん

「私も嫌だ」と思った。私は発言するときできるだけ「私たちは」という表現をしないことにしている。「私は」と言うことにしている。「私は嫌だ」という訴えに強く共感した。

9月6日、「老朽原発動かすな集会」は予定通り行われた。参加の有無や行動の有無はそれぞれの「私」にゆだねられた。参加者は1600人。自分の意見が集会を小さくしてしまったのではないかと、うしろめたさもあつた。どうか感染が起こりませんようにと願う気持ちもあつた。前後日の行動やSNS発



ポテッカーを掲げる皆さんといろいろな旗、幟

信も広く呼び掛けられた。意志を表示することをこんなに悩んだことはあまりなかった。参加者一人一人の「意志」に深く関心を寄せることができたことは、これからの仕事と運動の貴重な経験になった。大阪市で暮らすものの責任だと思ふし、原発立地の人々の人権侵害を止めなければならぬ。これからは微力ながら「老朽原発動かすな」の運動と「原発をなくす」運動にしっかりと「私は」参加してゆきたい。

(原発ゼロの会・大阪 事務局長 庄司 修)